

## 「海洋安全保障シンポジウム」に寄せて (反省と期待を込めて)

第26代 海上幕僚長  
古庄 幸一

### 1. 毎年継続して開催

第2回目のシンポジウムは、幹部学校関係者の努力により盛会に開催された。

海自にとってこの意義は大きい。海自は帝国海軍以来「サイレント・ネイビー」を伝統に与えられた予算と陣容で、「即応・精強」を掲げ海洋国家として「我が国の生存と繁栄」を確保するため我が国周辺で努力してきた。ところが湾岸戦争とその後の掃海部隊派遣後、気がついたら今やソマリア沖アデン湾での海賊対処、隊法に基づく弾道ミサイル破壊措置そして東シナ海での対中国海軍の監視、警戒等々多正面にわたる作戦行動に従事して成果を収めている。

現場の第一線では愚痴の一つもこぼさず黙々と頑張っているが、伸び切ったゴム紐になっていないか。予算・人員は削減され続け、隊員の教育訓練も計画通りに進まず、装備は予備品等の不足で稼働率の低下が深刻な問題と聞く。

メディアを上手く使いこの実態を国民に正確に伝える。そのための一つとしてこのシンポジウムは3年毎と言わず、毎年継続して幹部学校で開催すべきと提言したい。第一線がいくら頑張っても勝ち戦をしても、メディア戦で負ければ真の勝利とは言えない時代である。

### 2. 分を守り分を尽くす

筆者が海自に入隊した昭和44年頃は、今よりもっと海軍になるという雰囲気の中で任務に就いていた気がする。しかしこのところ自衛隊は40年前と違う意味の憲法違反・文民統制・国家公務員という形容詞付きで偽装を余儀無くされ、政治には口を出さぬことが美德かの如き雰囲気すら覚える。

その時々それぞれの分にある配置の多くの先輩は、国民の目の届かない海域で自ら計画した訓練を自らが評価し満足してきただけでは無かっただ

ろうか。

山本五十六大將は海軍次官として政治に口出し出来る配置としてその分を生かし、三国同盟反対、対米戦反対を強く主張し続けた。しかし聯合艦隊司令長官に就かれてからは一切政治には口を出さず艦隊のあるべき姿を求め続けた。我々はこの分を守り、分を尽くした大先輩を見習うべきであろう。

各指揮官はその配置の分を守り、海自に与えられた任務を達成するために分を尽くす覚悟を見せて欲しい。上は政治に口を出せる配置の分から下は家族を守る分まで隊員一人一人がその分を尽くす時がきている。これは反省を込めてのお願いでもある。